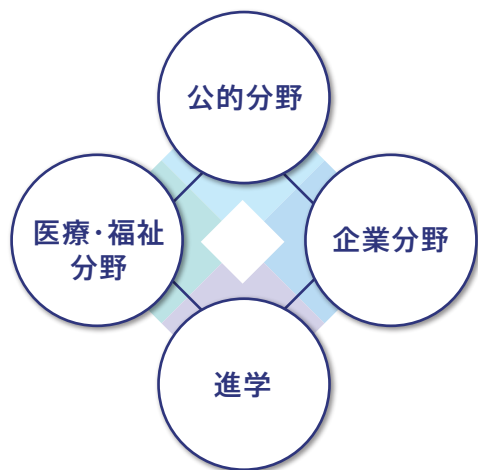


卒業後は、幅広い分野で活躍できます

スポーツに関する学びを生かせる進路は、想像以上に多彩です。日本福祉大学のネットワークを活用し、あなたの希望に応じた進路選択をきめ細かくサポートします。



公的分野

- ・教員 (中学校・高等学校〈保健体育〉、特別支援学校)
- ・公務員 (行政職、警察・消防職等)
- ・公益財団法人、社会法人、NPO法人等の各種団体

保健・医療・福祉分野

- ・保健所、病院、診療所等の医療機関
- ・各種入所施設・通所施設・老人保健施設等
- ・各種健康増進施設等

企業分野

- ・アスリート採用 (競技実績のある者)
- ・スポーツクラブ、スポーツ用品、マスコミ等スポーツ関連企業
- ・一般企業

進学

- ・スポーツ・健康系、福祉系大学院
- ・スポーツ・福祉関連資格取得に向けた進学

想定される取得可能な資格 (予定)

- 中学校教諭一種免許状 (保健体育)
- 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)
- 特別支援教諭一種免許状
- 健康運動指導士受験資格
- 健康運動実践指導者受験資格
- 障害者スポーツ指導員 (初級・中級)
- スポーツリーダー受験資格
- スポーツプログラマー受験資格
- アシスタントマネージャー受験資格
- レクリエーション・コーディネーター受験資格
- 社会福祉主事任用資格

読む SPORTS. 1

「スポーツ人類学」は何を学ぶの？

サッカーとラグビーのルーツは同じ！

サッカーとラグビーは、イギリスで生まれたスポーツと言われています。そのイギリスでは、中世に牛や豚の膀胱をボールにして“村”対“村”でそのボールを奪い合い、自分たちの村までボールを手で持って、あるいは蹴って持ち帰るというゲームが行われていました。ルールはなく、ただゴールの場所が決められているだけの何でもありの原始的なゲームだったそうです。当時はモラルも低く、ボールを奪い合う中では相手を殴る、蹴ることは当たり前、命を奪うくらいの暴力も許されていました。それを“民俗フットボール”と呼びますが、産業革命を経て、学校でもそのゲームが行われるようになり、校庭の中にゴールをつくり、ルールも定められました。そしてその後、ボールを手でさわることを禁止するサッカーと、手で持って走る



図. 野山をかけ巡り、ボールを奪い合う村人たち

ことを許すラグビーに分かれることになります。

そのサッカーとラグビーのルーツと言われる民俗フットボールが現在もイギリスの17箇所の村や町で行われていますが、それらのゲームはどれひとつ同じものではなく、その土地ごとに違うやり方で行われています。そして、その民俗フットボールから見えてくるのは、「なぜ自分たちのゴールにボールを運ぶのか」「なぜ1点先取でゲームを終わるのか」といった現在のスポーツとは異なる点についての疑問です。

このほか、「野球とベースボールの違い」「柔

道とJUDOの違い」「イギリス生まれのスポーツとアメリカ生まれのスポーツの違い」「陸上競技のルーツとは」「相撲における横綱はチャンピオンではない」などのテーマから、宗教、民族や国民性などの違いがスポーツにどのように現れているのか検討することは、スポーツの理解を深めるために欠かせない課題です。

以上のような疑問、テーマや課題について、関係者に直接インタビューし、あるいはアンケートで聞き、文献や資料等で調べるのが「スポーツ人類学」です。

※このリーフレットの内容は、現時点での計画であり変更することがあります。

